


**平成 22 年度橋梁耐震実験研究成果発表会**

\*本成果発表会は (社) 土木学会認定 CPD プログラムです。

主催：(独) 防災科学技術研究所

開催日時：平成 22 年 7 月 8 日 (木) 10:30～18:10 (予定)

開催場所：WTC コンファレンスセンター 3F A 会議室 (東京都港区浜松町二丁目 4 番 1 号)

(入場無料：120 名先着順、参加希望者は、①氏名、②所属・役職、③連絡先住所・TEL・FAX・E-Mail を明記の上、6 月 25 日(金)までに担当までお申し込み下さい。)

**プログラム**

<b>開会挨拶：</b>	<b>(10:30～10:40)</b>	防災科学技術研究所
<b>挨拶：</b>		文部科学省
<b>(1) 兵庫県南部地震が我が国の橋梁の耐震設計に与えたインパクト</b>		運上茂樹(解析WG主査, 国総研)
<b>(2) E-ディフェンスを用いた実験手法に関する研究 (11:05～11:40)</b>		
1) E-ディフェンスと中小耐震実験施設を連携した耐震実験研究		高橋良和(計測WG, 京都大学)
2) E-震動台実験の精度に関する検討		佐々木智大(東京工業大学)
<b>(3) 兵庫県南部地震でなぜ橋梁は倒壊したのか? (その1) (11:40～12:30)</b>		
1) 主鉄筋段落しのある橋脚の耐震性に関して、何が知られていたか		川島一彦(実行部会委員長, 東京工業大学)
2) 中型震動台実験から明らかとなった曲げ破壊モードとせん断破壊モード		塚淳一(土木研究所)
3) 静的載荷実験から明らかとなったせん断、曲げ耐力比が破壊形態に及ぼす影響 質 疑		佐々木智大(東京工業大学)
<b>休 憩 (12:30～13:30)</b>		
<b>(4) ブラインド解析結果 (13:30～14:10)</b>		
1) ブラインド解析結果の報告		睦好宏史(ブラインド解析WG主査, 埼玉大学)
2) 優秀者に対する表彰		
3) 受賞者の発表		
<b>(5) 兵庫県南部地震でなぜ橋梁は倒壊したのか? (その2) (14:10～14:50)</b>		
1) 橋脚のせん断破壊特性		幸左賢二(九州工業大学)
2) E-ディフェンス実験から何が明らかとなったか 質 疑		佐々木智大(東京工業大学)
<b>休 憩 (14:50～15:00)</b>		
<b>(6) 現在の基準で建設された橋梁は安全なのか? (15:00～16:00)</b>		
1) 曲げ破壊先行型橋脚の耐震性と課題		星隈順一(土木研究所)
2) インターロッキング式橋脚に比較して中間帯鉄筋を配した矩形断面橋脚は有効か?		川島一彦(実行部会委員長, 東京工業大学)
3) 1970年代の橋脚に比較して、現在の基準で設計された橋脚はどれだけ耐震性が高いか?		川島一彦(実行部会委員長, 東京工業大学)
4) E-ディフェンス大型震動台実験に対する解析シミュレーション 質 疑		佐々木智大(東京工業大学)
<b>(7) さらに耐震性の優れた橋梁は建設可能か? (16:00～17:15)</b>		
1) ダメージフリー橋脚の必要性和要件		松崎裕(東京工業大学)
2) RC橋脚、鋼製ファイバー橋脚、超高強度コンクリート橋脚との比較から見たポリプロピレン橋脚の特性		リシェル・ザフラ(東京工業大学)
3) ポリプロピレンコンクリートの特性と実大震動実験橋脚模型の製作		平田隆祥(株大林組)
4) ポリプロピレンコンクリート橋脚の有効性		川島一彦(実行部会委員長, 東京工業大学)
5) 免震の効果		矢部正明(ダンパー・支承WG主査, 株長大)
<b>(8) 今後、残されている課題 (17:15～18:00)</b>		
1) 今後、必要とされる橋梁耐震に関わる技術開発項目		星隈順一(土木研究所)
2) 常時微動モニタリングに基づく実大RC橋脚試験体の地震損傷評価		永田聖二(電力中央研究所)
3) 今後、大型実験が必要とされる技術開発事項 質 疑		梶原浩一(防災科学技術研究所)
<b>閉会挨拶：</b>	<b>(18:00～18:10)</b>	防災科学技術研究所

注：講演者、発表内容につきましては、予告無しに変更される場合があることをご了承下さい。

兵庫耐震工学研究センター 担当：中山、巳原 TEL：0794-85-8952

お申込み先 E-mail：[b\\_janda@bosai.go.jp](mailto:b_janda@bosai.go.jp) FAX：0794-85-8993